



# 園だより

文京区立第一幼稚園  
令和7年度6月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

## 遊びや生活の中で学ぶ姿から

副園長 工藤 真規子

梅雨入りが近いことを感じさせるような、蒸し暑かったり急に涼しくなったりする天候です。子どもたちはよく汗をかいて、遊びの後は着替えたり水を飲んだりするこの少しの時間が「ほっとするタイム」となっています。よく遊んで、心も体もすっきりすると「さあ、次は何をしようかな」と自然と次のことに気持ちが向かっていきます。入園・進級から2か月がたち、生活がすっかり子どもたちのものになってきていることを感じています。

昨年度に続き、「遊びや生活の中で学ぶ姿を見つめる」をテーマに子どもたちの学びの姿を園内研究として話し合っています。その中から一部をご紹介します。

砂場で遊んでいた年少のAさんは、型抜きに砂を詰めお団子を作りたいのですが、砂が崩れてお団子ができません。近くにいた担任がお団子を作るとそれをじっと見てから、同じようにし始めました。型抜きの凹みに砂を詰め、指でしっかり押し込んでからそっと型を持ち上げてみるのです。うまくいかなくても繰り返しながら、だんだんきれいなお団子ができるようになりました。お団子作りの中にも、3歳児なりの諦めない気持ちや試行錯誤、もっときれいに作りたいと迫る気持ちがあることが分かります。



年長の砂遊びは、時には全身泥だらけになることもあるくらいダイナミックです。大きな穴を掘り、水を流して海や川を作っていた3人は、途中、考えの違いで言い合いをしながらも一緒に遊んでいました。遊びの終盤で、Bさんがトレー（盆）を立てて水を堰き止めておき、水を運んでいっぱい溜めた後にトレーを外して、一気に反対側に水を流すことを思い付きました。結果は大成功！3人で大喜びしました。

高低差を作り変えることで水の流れを変化させるなどの知識、身近な道具を使って崩れにくい穴や水路、堰を作る技術、予想しそれを確かめる方法を考える力、何でも言える仲間関係など、様々な力が複合的に働いていることが読み取れます。友達と力を合わせて動き、一緒に喜びを味わったことが次の遊びを創出するエネルギーになっていくことでしょう。



年中は、ナスやミニトマトなどの苗に、楽しそうに水やりしたり葉っぱに触れたりしている場面をよく見ます。苗を植えた後に担任が野菜の塗り絵を置いておくと、緑や赤、紫に塗り、それらを並べて「白はまずい」「緑もまだ美味しくない」「(トマトの赤、ナスの紫を指して)次は美味しくなるの」と、会話を楽しんでいました。担任はそれを貼り合わせてプランターの表示にし、実際の生長と比べていけるようにしました。絵本やICT



などで簡単に調べたり教えたりできるけれど、子どもたちが自分で見付け、想像し、表現して体験していくことを大事にしたかったそうです。収穫して味わうのが楽しみですね、長期的に継続していく遊びや活動の中の姿を捉えていくことも大切です。

子どもたちが何に心を動かし、どのように学びの体験をしているのかを、ご家庭とも共有していきたいと思えます。写真掲示やお知らせコーナーの表示でも詳しくお知らせしています。ぜひお子さんと一緒にご覧ください。